

都留文科大学
同窓会報

第42号会報

発行 都留文科大学同窓会事務局
責任者 渡邊正司
山梨県都留市田原3-8-1
☎0554-43-4341



表紙写真: 田原交流センター (nicot)

大学愛・都留文プライド

都留文科大学同窓会会長

笹本 忠彦



同窓会員の皆様方におかれましては、ご健勝のこととお喜び申し上げ、また日頃より本会発展のためのお力添えに、心より感謝申し上げます。私は、昨年8月の総会において第18代会長として承認をいただきました。全国3万人を超える同窓会の会長として、主旨である「大学の発展への寄与」と「会員相互の親睦」の具現化に尽力していく所存であります。今後ともご理解、ご協力をお願い申し上げます。

総会の折に、就任挨拶として各都道府県代表者にお示ししたのが、「大学愛」と「都留文プライド」の2点です。このKey-word、何を連想されますか？都留の地で過ごした、古き良き時代の様々な思い出と共に、各々で連想ができるKey-wordだと思います。例えば「大学愛」。私事になりますが、私には2人の娘がおり、2人とも都留文科大学へ入学してくれました。更に私自身も、大学が好きで卒業式に2回参列しました。まさか単位が足りなくて留年？は、ギリギリでまぬがれました。そうではなく、1回目の卒業式は、同級生と一緒に昭和62年度に。2回目は、それから15年後に大学院を受験し、2年後の平成15年に無事に大学院を卒業できました。この2回目の卒業式は、教職に従事しながら修士論

文作成との両立でしたので、感慨深いものがありました。最後に、もう1つ大切な「大学愛」があります。勿論、私の配偶者も都留文科大学の卒業生ということです。「家族ぐるみの大学愛」を自称しております。

2つ目のKey-wordは「都留文プライド」。これも私事ですが、令和5年度で教職36年になります。その期間の1/3(12年間)を学校現場ではなく行政機関に向向した関係で、仕事柄、「出身大学」データを数多く扱いました。その際、「都留文科大学」の文字を目にすると、先輩であれ後輩であれ、学校訪問時には、声掛けをさせていただきました。大学時代の様子や経歴、人となりから「都留文プライド」を確認し、職務上更に高みへ誘える資質かどうかの判断材料としました。私の経験上、やはり「都留文プライド」をもっている人に、間違いはありません。

このような「大学愛」や「都留文プライド」の話題を、楽しく朗らかに共有できるのが、「同窓生」であり「同窓会」だと思っています。その同窓生が、世代を越えて繋がる原動力は、過ごした時代は違えども、先生方や下宿先、部活動やアルバイト等の話題で、都留での思い出や大学への熱い思いに共感できた瞬間だと思います。幸いにも本学同窓生は、全国47都道府県に在住し、地域や各界で活躍しておられます。是非、支部活動に参加し、語り合い、支え合い、更に絆を深めていただきたいと思います。

結びになりますが、全国の会員諸氏がアフターコロナの生活を順風満帆に、しかもご家族と共に平穩に過ごしながら、それぞれがもつ「大学愛」と「都留文プライド」を地道に育てていけることを願い、挨拶とさせていただきます。

都留文科大学同窓会役員

役職名	氏名	卒科	役職名	氏名	卒科	役職名	氏名	卒科	役職名	氏名	卒科	
名誉会長	加藤敦子	学長	茨城県支部長	長岡省一	S55英	奈良県支部長	岡田善英	S45初	理事	顧問	小沢慎太郎	H06初
会長	笹本忠彦	S62英	栃木県支部長	平野見一	S54英	和歌山県支部長	谷口博保	S51初			平井昌秀	S59初
副会長	桐井幸雄	S32初	群馬県支部長	齋木雄造	S52国	鳥取県支部長	藤井幹裕	S55初			内藤郁夫	S48国
	杉中康平	S59初	埼玉県支部長	西 敬	S56初	島根県支部長	小藤 貢	S44初			千野文雄	S48英
	渡邊正司	S63初	千葉県支部長	川名和則	S51英	岡山県支部長	関野茂夫	S58初			藤森 勇	S53初
	小山田拓也	H06初	東京都支部長	松本多加志	S44初	広島県支部長	中西正一	S41初			石井正己	S51初
庶務会計	小口尚良	S60初	神奈川県支部長	山田節朗	S45初	徳島県支部長	小倉健司	S53英			後藤 敬	S33商
	原田裕太	H07初	新潟県支部長	池原栄一	S50初	愛媛県支部長	谷川忠孝	S42初			佐藤英雄	S38国
事務局長	山本香栄	大学総務課長補佐	富山県支部長	杉高 浩	S63初	高知県支部長	前田志郎	S48初			奥石 東	S32初
	奥脇美穂	H01初	石川県支部長	谷内誠一	S50英	長崎県支部長	平山繁壽	S44初			山縣永良	S39国
事務局次長	浜欠亮吉	S39国	福井県支部長	佐藤康裕	S61初	熊本県支部長	杉水 修	S61初	勝俣武男	S41初		
	外川正純	S46英	山梨県支部長	奥石 務	S52初	宮崎県支部長	取附義弘	S51初	永田清一	S46国		
監 事	梶原裕一郎	H12初	長野県支部長	市場香代子	S60英	鹿児島県支部長	本田武久	S43国	千野文雄	S48英		
	淡野香百合	S39初	岐阜県支部長	清水久司	S53国	沖縄県支部長	比嘉正夫	S53英	亀田孝夫	S51英		
理事(支部長)	相川洋子	S52英	静岡県支部長	臼井 泰	S46国	北海道	加藤佳栄	S55英	原 喜雄	S53初		
	北海道支部長	北田則章	S56英	愛知県支部長	寺尾奨宏	S61初	東北(トウホク)圏	鎌田 清	S47初	加藤一雄	S53初	
	青森県支部長	遠藤ゆみ子	S63初	三重県支部長	田畑繁行	S53初	兵庫県	赤穂榮一	S40英	柏木精一	S57初	
	岩手県支部長	高橋節夫	S56英	滋賀県支部長	松嶋孝雄	S46初		篠原利明	S63初	河端雄一	S63初	
	宮城県支部長	片岡有吾	S63初	京都府支部長	枅谷雄三	S44初		雨宮義仁	S57英			
	山形県支部長	渡邊 隆	H04初	大阪府支部長	藤田明彦	S57初		浅川孝夫	S53英			
	福島県支部長	大竹豊紀	S39初	兵庫県支部長	高谷和久	S43初		中山栄二	S55初			

来たる70周年 に向けて

都留文科大学学長

加藤 敦子



昨年4月に学長に就任し、1年が経ちました。今年度は新型コロナが5類になり、各種の行事をコロナ前のように対面で行うことができるようになりました。同窓会関連では、同窓会理事会、同窓会総会、三重県・岩手県・沖縄県の支部総会、神奈川・相模原の飛翔の会に出席させていただきました。支部の同窓生の方々と交流する機会を得て、同窓生の方々が全国各地で活躍されており、都留文科大学への想いを大学と在校生への支援につなげて下さっていることを実感しました。厚く御礼申し上げます。今後できるだけ多くの支部の総会・懇親会に出向き、皆さまとお目にかかれたいことを楽しみにしております。

さて、近年、大学は時代の変化に対応すべく、様々な取り組みを行っています。4月には南都留合同庁舎をリノベーションした都留ヒューマニティーズ・センター（THMC）を使用開始しました。このTHMCに教職支援センターを配置し、本学の要である教員養成カリキュラムや卒業生支援のさらなる充実を図っています。また一方で、THMCではVRや3Dプリンター、レーザーカッターなど最先端のデジタル機器を自由に利用できるデジタル・commonsも運営しています。この場を利用して、データサイエンスやインフォメーションテクノロジーな

ど「文科」の枠を越えた講座やカリキュラムを推進していきます。

今年度は、海外の大学との交流もコロナ前の状況にほぼ戻ってきました。交換留学はセント・ノーバート大学、オックスフォード・ブルックス大学、サラマンカ大学、湖南師範大学、韓国外国語大学校などへ送り出し、受け入れとともに活発になっています。国際教育学科の北欧の大学との交換留学も再開し、キャンパスにあちこちの国からの学生が目立つようになりました。海外の提携大学を増やす努力を続けており、来年度にはさらに多くの国・地域に学生を送り出し、多様な学生を受け入れることができる見通しです。

また新年度4月からは、学部改編により、国文学科・英文学科の文学部、学校教育学科・地域社会学科・比較文化学科・国際教育学科の教養学部という2学部6学科の体制となります。これに合わせて全学的なカリキュラム改訂を行い、「TSURU副専攻プログラム」を導入します。副専攻プログラムでは、主専攻である学科専門の学びに加えて、「デジタルシティズンシッププログラム」「TSURU-STEAMプログラム」「国際日本研究プログラム」など、学科の枠を超えて学際的かつ体系的に学ぶことができる10のプログラムを用意しています。都留文科大学ならではの新たな学びとして、副専攻プログラムの広報に力を入れています。

2025年に本学は創立70周年を迎えます。大学としては、70周年を都留文科大学の素晴らしさを日本全国にアピールし、学生、同窓生、教職員、地域の方々の連帯を深めていく機会としたいと考えています。同窓会の皆様方にも今後引き続きご支援ご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

令和5年度 都留文科大学同窓会都道府県別会員数

No	県名	会員数	No	県名	会員数	No	県名	会員数	No	県名	会員数
1	北海道	631	13	東京都	1,361	25	滋賀県	108	37	香川県	158
2	青森県	276	14	神奈川県	1,274	26	京都府	260	38	愛媛県	362
3	岩手県	699	15	新潟県	679	27	大阪府	460	39	高知県	89
4	宮城県	613	16	富山県	726	28	兵庫県	828	40	福岡県	220
5	秋田県	276	17	石川県	653	29	奈良県	86	41	佐賀県	83
6	山形県	407	18	福井県	562	30	和歌山県	208	42	長崎県	234
7	福島県	758	19	山梨県	4,116	31	鳥取県	162	43	熊本県	185
8	茨城県	532	20	長野県	1,354	32	島根県	225	44	大分県	110
9	栃木県	528	21	岐阜県	604	33	岡山県	427	45	宮崎県	160
10	群馬県	441	22	静岡県	1,764	34	広島県	491	46	鹿児島県	338
11	埼玉県	564	23	愛知県	1,223	35	山口県	160	47	沖縄県	249
12	千葉県	612	24	三重県	412	36	徳島県	455	48	外国・不明等	11,800

合計 38,923

県支部設立済都道府県

令和6年1月1日現在

感謝を込めて

都留文科大学退官教授
学校教育学科

清水 雅彦



都留文科大学に着任したのは1999年(平成11年)、欧州の単一新通貨「ユーロ」が誕生した年のこと。世の中はミレニアムという言葉で新世紀への期待が大いに語られておりました。ミレニアム世代からゼット世代へと学生も移り変わり、大学の新学科設立や拡充などあらゆるものがめまぐるしく変容する中で、唯一私がそこに身を置き、ゆったりとした流れの中であたたかみを感じる所、それが都留文科大学同窓会でありました。名前ばかりでしたが会計監査という役に就かせていただいたことで、どれほどの思いがそこに在るのか、そして現役生が同窓会にあずかっているかを知ることができた……。まずは大学同窓会と会員の皆様様に心より感謝申し上げます。

個人的には大学合唱団の顧問・指揮者として、多くの県支部の皆様と関わりを持たせていただきました。特に宮城県同窓会支部から演奏依頼があった2011年12月復興支援クリスマスコンサート、2016年末の被災地応援コンサートで、それぞれが深い思いを抱えられていらっしゃるであろう同窓会

の皆様が、常に真摯に優しい面持ちで被災された方々を笑顔に導いていらしたお姿が、学生はもちろん、私自身に「歌うことの理由(わけ)」を再認識させてくれたと強く思います。実は2020年末にも決定していた宮城県での演奏会は、コロナ禍にあってまだその行方が全く分からず中止、一年持ち越しての開催を画策してくださったものの断念する事態となった経緯があります。同窓会、そして宮城県支部の皆様がこの場を借りて御礼申し上げます。

そのコロナ禍にあって一年中断された全日本合唱コンクールが2021年岡山で開催され、前夜練習会場に駆けつけてくださった岡山県同窓会支部代表の皆様から、熱い応援メッセージとご厚志を賜りました。大学と県支部の旗のもと皆で記念撮影をしたことで、翌日に向けて学生の士気が高まったことは言うまでもありません。その写真を今、懐かしくありがたく眺めています。

神奈川県支部、その他の支部からもたくさんの演奏依頼をいただきました。学生が直接同窓会にふれさせていただくこうした機会は、諸先輩の研鑽の中に大学が築かれてきたこと、それを自分たちが受け継いでいくのだという貴重な気付きを与えてくれるわけですが、この都留文科大学の葉脈とも言える清らかな熱い思いは、同窓会があってさらに未来へと繋がっていくものと思います。

大学、同窓会、いつも傍でご支援くださった都留市民の皆様へ感謝を捧げるとともに、この春卒業する一教員として、都留文科大学をこれからも心に留め応援していく所存です。

お世話になりました

都留文科大学退官教授
国文学科

寺門 日出男



大学生として4年間、専任教員として32年間、都留文科大学には本当にお世話になった。まずは心から御礼申し上げます。

当たり前のことだが、今や大学で一番の古株である。定年を間近にして振り返ってみれば、あっという間のように思えるが、キャンパスを眺め回してみると、その変貌の大きさに改めて時の経過を痛感する。

私が本学に入学したのは昭和55年。下宿探しに訪れた3月末、富士急の車両の古さに、まずは驚いた(ブラインドも座席も木造)。降り立った谷村町駅前は、寅さん映画にでも出てきそうな風景だった。大学も、当時まともな建物は1号館と図書館(現4号館)ぐらい。音楽棟も柔道場も古色蒼然とした木造だった。学食は1号館建設当時の飯場をそのまま

転用したもので、床は土がむき出し。生協に至っては建物すら無く、廃車バスを再利用した店舗だった。今や、2~5号館に、今春改築なった6号館が加わり、かつての事務局跡には、何とコンビニまで開店した。(都留市内にコンビニがオープンしたのは、私が大学4年の時。それまでは午後9時ともなると、町は真っ暗だった。)小なりとはいえ、なかなかの充実ぶりである。

学生の進路も随分と変わった。私の頃は、英文は別として、9割方は採用試験を受け、教員になっていたように思う。私が赴任した頃は、少子化とそれに伴う学校の統廃合等の影響でなかなか試験に合格出来ず、他の道に進む者が増加傾向にあった。近年は逆に、教員=ブラックという職業観が支配的になり、受かり易いけれど、あまり採用試験を受けなくなってきている。そもそも学校教育学科を除き、免許を取得する者の割合が激減した。国文学科では、もはや3割にも満たない。止まらぬ少子化の中、教員養成の柱は大切にしつつも、大学独自の魅力を発信していかなければならない。それはやはり、学生をいかに教育するかにかかっていると思う。

教職員として出来ることは、もはや幾らも残っていないが、4月からは同窓生の一人として、大学のため出来るだけのことはさせて頂きたいと考えている。

比較文化学科 赴任30年

都留文科大学退官教授
比較文化学科

邊 英浩



1993年4月比較文化学科が新設された翌年4月、私は赴任した。金子博、福田誠治、鳥居明雄先生たちが他学科から異動して設立主体となっていたところの末席に合流させていただいた。比較文化学科設立30周年記念行事が2024年2月に1年遅れで開催されるが、思えば設立時の事情を知るメンバーは私が最後であることに気がついた。赴任後都留文科大学を救うために新学科設立に尽力した諸先生たちの熱い議論に触れ、熱が伝導してきた。学生も1年生、2年生しかいなかったが、先輩がいないので自分たちの自由に学科を作っていけるので入学したという強者が多く、新歓オリエンテーションでは2年生オリターたちは「私たちがするので先生たちは何もしなくていいです」と頼もしく言い、教員に負けず

劣らず熱かった。教員と学生との距離は近く、付近の飲食店で夜遅くまで学生と熱く語り合うのは日常的な景色であった。優れた教育環境に恵まれていた。

この時期日本政府、文部省の方針が国際交流、アジア重視へとシフトし、学科内では共生、人権などに深い理解を有する優れた先生方に恵まれた。時に他学科の教員から懇親会の酒席で「君は戦争が起きたらどこの国の鉄砲を担ぐんだ！」など言われることがあったが、私は冗談っぽく「私、体が弱いんです。鉄砲は重くてとても担げません。水鉄砲ぐらいしか無理なんです」と応答し、どこの国の鉄砲も担がない第三の選択肢があると示唆したつもりが、相手は怒りだしたりしたが、「世の中には二種類の人間しかいない。敵か味方か」との言説があるが、全てを敵と味方に分けようとする二元論的な対立思考自体が危険な哲学思考であり、三元論思考へのシフトの必要性は容易には人々には伝わらない。ただ学科設立時の同僚にはこの二元対立を学問的、実践的に乗り越えようとする尊敬できる同僚たちがいた。世界は二元対立が深まり、日本でも選挙で敵攻撃に終始し、憎悪感情を煽り立てる手法が広まりつつあり、今現在大規模な戦争が2つも続いている。設立時の比較文化学科が帯びていた熱い倫理的雰囲気は今後設立40周年、50周年と続いていくことを切に願っている。

活躍する同窓生

「三方よし」が 架け橋となり

滋賀県東近江市立五個荘小学校
再任用校長

清水 一範

(昭和60年度 初等教育学科卒業)



大学での思い出といえば、下宿の先輩に誘われて入団した合唱団での楽しい4年間でした。中でもそのメンバーと都留市で行われたNHKのご自慢でチャンピオンになったことです。今でも我が家に古くなったトロフィーが残っています。

1 教諭時代

卒業後、滋賀県の小学校教員となりました。2校目が現在校長として赴任している五個荘小学校です。校長として4年。教諭時代を含めると通算16年の在籍です。5度卒業生を送り出しているのが、現在、教え子が何人も保護者としていてくれます。

そこで始めたのがバレーボールスポーツ少年団の指導です。「元気よし プレーよし チームワークよし」を掲げ、何度も全国大会に出場し、コーチングやペップトークなど、意欲を高める指導を取り入れました。そのことが、学校での「コーチングスキル」を磨くことに繋がりました。今でも監督をしています、校長が携わっている例は少ないと思います。

2 教育行政に関わって(教育委員会)

何度も教育行政を経験しました。まず、派遣社会教育主事として、生涯スポーツ振興に携わりました。ニュースポーツクラブの設立などに関わりました。

また、東近江市教育研究所に4年間勤務しました。教職員の資質向上を図るための企画・立案・運営を行いました。ワークショップ型の研修や生涯学習タイプアップ講座、ライフステージ研修などです。

平成24年度から3年間は、県教委教職員課に勤務しました。教職員の人事を担当する仕事です。教職員個々の良さを生かし、能力が十分発揮できるよう、適材適所に配置することの難しさを感じました。人事の公平性を保つため、40日程度、泊まり込んで仕事をしていました。滋賀の教師塾や高校生のための教師塾など、将来、教職員を目指す人材の育成と教員採用の業務も行いました。

その後、現場の教頭の仕事をしないまま校長級となり、市町教育委員会にいた頃には、マスコミの前で、不祥事の謝罪会見を行ったこともありました。

3 校長になって

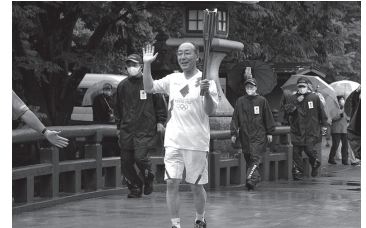
教育長交代による人事異動により、年度途中の平成28年10月25日から小学校長として赴任しました。急な交代でしたので、教職員や子どもたちとの距離感や学校マネジメント(リーダーシップの塩梅)が非常に難しいと感じていました。

令和2年4月、今の学校に赴任しました。新型コロナのため、臨時休校や教育活動の制限がありましたが、「地域と共に歩む学校 学んでよかった五個荘小学校 暮らしてよかった五個荘地区」を目指し、市内で最初のコミュニティ・スクールを立ち上げました。



【屋根は約7万枚の瓦を使用、校門は長屋門の佇まい】

令和3年5月27日には東京オリンピックの聖火ランナーとして走りました。スポ少のことを書いて応募したら選ばれました。トーチは東日本大震災の仮設住宅で使われたアルミ建材が一部使用されていました。トーチはもらうことができましたので、この感動や貴重な経験を自分だけにせず、すべての学級でトーチがもつ意味と価値について話す機会を持ちました。スポ少関係者等を含め1000人位に持ってもらいました。



今年度、近江商人

発祥の地域なので、学校教育目標を『五小三方よし 自分よし みんなよし 未来よし』と変更し、馴染みやすく分かりやすい五個荘らしい目標としました。

4 おわりに

校長だよりのタイトルを「信・認・任」(信じて・認めて・任せよう)～笑顔で「共育ち」～としています。コーチングから学んだ言葉です。同僚性を大切に感謝の気持ちで、子どもも、教職員も、信じて、認めて、任せていく。そして、どんな時でも笑顔で!

昨年、還暦のお祝いでお祝いで教職員からいただいたありがたい言葉で締めくくりといたします。

【一範(かずのり)】

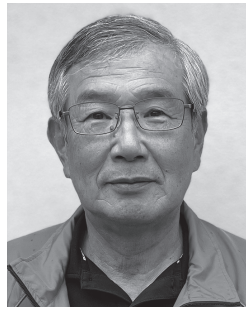
**数々のリスクに遭遇しても 弱音を吐かず乗り越える
数の利に勝る 一範の利**

活躍する同窓生

地域とともにある 学校をめざして

橋本 栄

(昭和50年度 国文科卒)



都留文科大学を卒業して48年、今年で70歳の古希を迎えました。健康で過ごせてきたことへの感謝と私が今まで出会った多くの人たちや関わってきた地域の方々に育てていただいた事に感謝している毎日です。

その恩返しが少しでも出来たらと、私のふるさと苧野(あぞの)地区の活性化と地域コミュニティー存続の中核的な存在である苧野小学校の存続に向けて様々な取り組みを進めています。

『あぞの応援団』の結成

38年間の教員生活を退職すると、待っていたかのように地元苧野地区の役員を頼まれました。

苧野地区は姫路市の西北部の山間部にあり、世帯数約290、人口約900人の姫路市内で最も小さな連合自治会です。近年人口減少と少子高齢化が加速し「小学校はもうすぐなくなるのでは」「苧野は何もない不便なところからあかんわな」というあきらめムードが漂い始めていました。住民が苧野の魅力を再発見したり新しい魅力を創造したりして「何にもないようやけど苧野には〇〇〇があるやん!」と住民が自信を持ち、高齢者から子どもまでが楽しく暮らす魅力あるまちづくりをめざしていこうと平成27年に「あぞの応援団」を立ち上げ、団長になりました。

「あきらめてへんで! 苧野」の合言葉

地域の活性化をめざして先ず自分たちで出来る楽しいことを考えようと、月に1回例会を続けています。私は自治会の役員と活性化に意欲のある人たちとのつなぎ役として、苧野の良さを出し合ったり、既存の行事をもっと楽しく一工夫をしたりすることから取り組みを始めました。意見を出し合う中で、苧野小学校の少人数教育、一人一人の個性に応じたきめ細やかな教育、温かな地域の人たちの小学校への見守りや支援なども、苧野の大きな宝物であることをみんなで確認し合いました。

小規模特認校制度の導入

姫路市教育委員会は学校適正規模・適正配置審議会を開催し、少子化に対応した教育についての話し合いが始まりました。審議会の中で小規模校の現状

を発表する機会がありましたので、私と校長先生が出席して、小規模だからこそできる教育の魅力の報告と、53万都市の姫路にぜひ市内全域から通学できる「小規模特認校」制度を導入してほしいと訴えました。

並行して、苧野小学校の体育館で「奇跡の小学校の物語—この学校はなくさない!」のドキュメンタリー映画の自主上映会を実施し、校区の皆さんや近隣のPTAの方々、そして教育委員会の方にも見ていただき、小規模特認校制度の理解を深めてもらいました。その結果、令和2年2月「姫路市立小中学校適正規模・適正配置基本方針」の中に小規模特認校制度の導入を明記していただきました。

地域とともにある学校をめざして

令和5年4月から苧野小学校と安富北小学校の2校が特認校として実施することになりました。しかし、市内全域から就学可能だと言っても、校区外から就学を希望される魅力ある学校にすることとその魅力をどう発信するかが大きな課題でした。

(1)温かい声かけ

小規模特認校の成功事例の「地域の方の温かい声かけが一番うれしかった」から、子どもはもちろん地域の私たちの声かけの大事さを学びました。

(2)苧野の自然を生かした魅力的なイベントの創造

苧野の四季を満喫する地域イベントと学校のオープンスクールの日の午後に合わせて開催するイベント(あぞのDAYキャンプ、あぞのマルシェ)を実施。

(3)学校行事や学習への協力や情報の発信

体験を通して学ぶ教育へ積極的に協力したりSNSに詳しい方に情報発信をお願いしたり、マスコミへの取材依頼をしたりして苧野の魅力を発信しています。

強力な助っ人現れる

その頃苧野公民館で都留文大の1年後輩であり市内の校長仲間であった山田浩三氏のミニコンサートがありました。我々の活動を話し、ダメもとで苧野のテーマソングを作ってくれないかと依頼したところ快諾してくれ、「あぞみに魅せられて」を作曲し、おばちゃん達に大好評でした。その後山田氏自身が「苧野に魅せられ」「あぞの応援団」に仲間入りしてくれました。苧野のゆるキャラ「羽ばたけ あぞぴー」を作曲して小学生と一緒に歌ったり、姫路市内の公民館のコンサート等で苧野小学校のPRをしたりと大活躍中です。

地域の方々の熱意や小学校との深い連携により、令和4年度全校生27名(複式3学級+特支1学級)から、令和5年度には校区外から15名の転入生を迎え全校生45名(5学級+特支1)になりました。地域とともにある学校へもうひと頑張りです。

4年連続の書面総会となりました

北海道支部長 北田 則章

8月に支部創立52周年の総会を対面形式で実施する予定でしたが、役員会で「まだ無理するべきではない」との意見が多かったため、各会員宅へ議案書を郵送する書面総会を4年連続で実施しました。異議申立てはなく、原案どおり承認となりました。

定例の役員会は、3回実施しました。コロナ禍が落ち着くに連れて出席者が微増となり、何とか会議の体裁が整うようになりました。

次年度は、役員改選期にあたることから、支部規約に基づいて執行部役員を選考を進めた結果、第3回役員会で右記のとおり新体制を決定しました。令和6年度の総会で承認を得る予定です。

その「第53回総会・懇親会・講演会」は、令和6年7月27日(土)に札幌市の『ホテルライフオート札幌』で開催すべく、会場を仮押さえています。このままコロナ禍が沈静化して、再度の行動制限等が課せられない限り、会員が一堂に会する対面形式で総会を実施します。是非ご参加ください！

私事ですが、今限りで支部長職を退き、事務局長として新執行部を後方支援します。全国の支部長さん及び同窓会役員の皆さんと2回しかお会いできなかったのは残念ですが、

6年目へ ～できることから一步一步～

青森県支部長 遠藤 ゆみ子

平成の最後に支部を発足させることができ、令和の初めに本格的に始動しはじめた青森県支部ですが、設立3年目にコロナ禍に巻き込まれ、2度の総会を開いただけで、実質休止状態が続いていました。しかし、それでも何とか会員の皆様と繋がっていたという想いは持ち続け、メッセージ集を発行し、辛うじて繋がっていたと自負していました。

そんな中、5月8日にコロナの位置づけが5類に移行してから、徐々に各イベントが開催されるようになり、いよいよ青森県支部の活動も再開していてもいいのではないかなという声が聞こえ始めました。

その励ましの声を力に変え、令和5年10月28日八戸パークホテルにおいて、4年ぶりに第6回総会と懇親会を開催することができました。総勢11名の参加でしたが、人数ではなく再会できたことへの喜びが大きく、みんなの笑顔に癒されました。総会では、理事会の報告や支部の活動・会計報告、役員改選、今後の活動等について承認されました。

懇親会では、多くは教員経験者でしたが、あらゆる方面で活躍なさっている方々もいらっしゃり、様々なお話を伺うことができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。ま

長いトンネルを抜けるとそこは釜石であった

岩手県支部長 高橋 節夫

長かった。「朝の来ない夜はない」そんな思いを抱きつつ、さりとてことさら焦る訳でもなく、構想通り釜石で5年ぶりの岩手支部総会を開催できた。参加者19名、うち初参加の2名が心地よく爽やかな風を運んで来てくれた。研修会では、釜石出身で本学OGの川崎杏樹さんが、東日本大震災津波の語り部として貴重な体験談と熱いメッセージを届けてくれましたし、加藤学長様からは、特別講話『都留大の現状と展望』のテーマで興味深いお話を頂きました。懇親会もほんわかと盛り上がり、とても有意義な会となりました。6時間かけて駆けつけ、2次会までお付き合い下さった学長様には、衷心より感謝申し上げます。皆会話に夢のあまり、1次会では殆ど食べずじまい!? それでも、2次会で頂いた海の幸の料理は美味でしたし、日本酒「浜千鳥」もかなりいけましたね。釜石でやった甲斐あり! プラポ~!!

事務局長はじめ、ここに漕ぎつける迄にご尽力頂いた方々、参加して頂いた皆様に感謝申し上げます。2年後、岩手支部は更に盛り上がる。乞うご期待!

【都留大同窓会岩手支部役員】R1~6年度 もう1年頑張ります!

- ・ 顧問: 司東節子 S38初、高橋一臣 S39初、
 穴戸英明 S40初、堀籠智志 S53国、
 小山田厚 S55国
- ・ 会長: 高橋節夫 S57英
- ・ 副会長: 小山田厚 S55国、千葉新也 S56初(特編)

次世代へバトンを渡すことができ安堵しています。短期間でしたが、ご厚誼を賜りまして、ありがとうございました。

＜令和6年度-令和7年度役員＞

支部長	照山 秀一 (平成元年度)	英文
副支部長	山本 洋嗣 (昭和55年度)	国文
	中村厚喜夫 (昭和52年度)	初等教育
	河原 範毅 (昭和56年度)	英文
	(道南地区担当~未定)	
事務局長	北田 則章 (昭和56年度)	英文
事務局長次長	佐藤香代子 (平成6年度)	初等教育
	桜田 琢 (平成8年度)	社会
会計	神野 昌代 (平成4年度)	国文
事務局員	吉田 俊介 (平成25年度)	英文
	赤間 圭城 (平成25年度)	国文
	小野寺紗希 (平成25年度)	英文
会計監査	井口 郁将 (昭和50年度)	国文
	江川 順一 (昭和60年度)	国文
顧問	日下 功 (昭和32年度)	初等教育
	熊谷 勲 (昭和38年度)	国文
	当銀 誠博 (昭和39年度)	初等教育
	横山 勲 (昭和40年度)	国文
本部理事	加藤 佳栄 (昭和55年度)	英文
	照山 秀一 (平成元年度)	英文

た、「都留」という場所で時間は違えども学生生活を送った人達としてすぐに共通の話題で意気投合し、大学の思い出に花を咲かせることもできました。

今後は、できることから一步一步着実に歩み、こうした喜びをより多くの方々と分かち合いたいと思いますので、ぜひ次回の総会からお集まりいただければ幸いです。よろしくお願ひ申し上げます。



- ・ 事務局長: 相墨純 H3初
- ・ 事務局員: 滝澤真貴子 H6初、伊藤昌俊 H1国
- ・ 理事: 盛岡: 吉田文明 S55国、中部: 門屋なつみ H1国、
 県南: 加藤絹代 S55英、沿岸: 山名秀樹 S55国、
 県北: 山名花苗 H28社、高校: 安藤裕之 S63国
- ・ 監事: 小山奈美子 H5初、丹百合 H5初



次回はもっといっぱい参加してケロッ!

宮城県支部活動報告

宮城県支部長 片岡 有吾

令和5年2月、3年振りとなる宮城支部総会並びに懇親会を開催しました。当日は大学同窓会より河端雄一会長、田中正樹事務局長をお迎えし、会員30名の参加で再会の喜びを分かち合いました。総会の後、懇親会では参加者各年代からのスピーチがあり、和やかな雰囲気のもと、一人一人の話を耳を傾け、それぞれの「思い」を感じ取ることができました。また、9月には教員採用試験対策学習会を開催し、11名が参加しました。そのうち、都留大の学生が見事合格しました。コロナ明けの今、今後も宮城支部の活動を更に充実させていきたいと考えております。

【宮城支部教員採用試験研修会についての連絡先】(メール)yugo5042@gmail.com 片岡までお知らせください。



都留文科大学同窓会宮城支部総会

〈令和5年度役員〉

- 顧問 鎌田光彦 鎌田 清 小野俊次 千葉龍正
菅野俊雄 菅原義之
参 与 伊藤常治 坂本忠厚
大学同窓会理事 鎌田 清 片岡有吾
支 部 長 片岡有吾
副 支 部 長 一條良介 斎藤竜一 千葉睦子 市岡良庸
小野寺直美 伊藤ひろみ
事務局 <事務局長> 菅野俊雄 <事務局次長> 高橋克己
伊藤ひろみ 浅井理香
斎藤竜一 小野寺直美
熊谷拓郎 高野 剛 大庄司華菜
横山英美 及川恵子 杉浦瑞穂 大庄司華菜
会 計 横山英美
地区役員 仙台市 ○広瀬清文 佐藤文栄
佐藤幸光 馬場純子
仙 南 ○伊藤久美子 吉田準子 齋藤竜一
台 北 ○高橋克己 伊藤 稔 市川人士
大 崎 ○清水 進 及川恵子
登 米 ○佐藤 純 後藤咲織
栗 原 ○岩渕和男 杉浦瑞穂 片岡明恵
石 巻 ○高清水美枝 千葉慎一郎 菅原佳江
気仙沼 ○小野寺直美 斎藤竜一
研修部 <部 長> 一條良介 <副部長> 相澤光信
監 事 横山貞夫 佐藤幸光

くお願いいたします。

べにばなの花言葉の如く都留を愛す

山形県支部長 渡 邊 隆

山形県支部べにばな会では、コロナ禍明けの今年度、滞っていた総会について、寺門都留文科大学教授、片岡宮城県支部長を来賓としてお迎えし、会員17名の参加のもと実施することができました。今回多くの方に参加いただき、大変嬉しく思っております。当日は、これまで支部を牽引して下さった元支部長及び久しぶりに参加いただいた諸先輩方、また、令和卒の若い方とも一緒に集うことができ、大いに盛り上がった会となりました。

全国の支部長の中ではまだまだ若輩の、平成卒の私ですが、これまで30年間積み上げてきたべにばな会の実績を踏まえ、新たに若い会員の方々の協力を得ながら、より一層の会の充実を図っていききたいと思っています。総会の実施に当たっては、同窓会本部事務局より多大なご支援をいただき大変感謝しております。引き続き、本会の活動にご尽力を賜るようお願いいたします。

なお、次回の総会は2年後の令和7年度に開催する予定ですので、山形県支部所属の会員の方々にたくさん出席いただけますよう、積極的に声かけ等行っていききたいと考えています。会員の皆様、総会及びその後の懇親会への参加、よろし

【令和6・7年度 べにばな会役員】

- 顧問 武田茂行 会 長 渡邊 隆
副 会 長 佐藤敏幸 会計幹事 原田清一
村山地区理事 小川秀人 鈴木雄二 白林和夫
最上地区理事 武田茂行
置賜地区理事 神尾正俊 佐藤秀樹 中條秀基
庄内地区理事 若月 力 野口利明



令和5年度 第14回 都留文科大学同窓会山形県支部 べにばな会 総会

「らんまん」たる支部活動へ

栃木県支部長 平野 見一

栃木県、そして全国の同窓生のみなさん、こんにちは。本支部は令和元年8月31日に全国41番目の支部として設立されました。今後も支部会員をはじめとした全国の同窓生の皆様のお力添えをいただければ幸いです。

令和5年度の事業は、正に「らんまん(爛漫)」たる支部活動へ一歩前進できたのではと考えています。

【その1】年度2回の役員会の初開催

コロナ禍の中、参集しての役員会を初めて2回開催(6月、3月)しました。役員の方々の情熱が支部活動を盛り上げています。心から感謝!

【その2】「同窓生と在学生との懇話会」への初参加

大学同窓会理事会終了後に行われました。栃木県の教員を目指す女子学生3名(4年生2名、3年生1名)に支部長が情報提供等を行いました。初の準会員(在学生)3名が誕生しました。ありがとう!

【その3】支部だより「つる」とち LINE」初発行

支部だよりの名前には「心のふるさと都留と栃木を結ぶ、会員同士を結ぶ」という意味を込めています。支部会員全員

に配付しました。第2号が待ち遠しいという声がありや無しや…。乞う御期待!

最後になりましたが、都留文科大学と都留文科大学同窓会のますますの御発展と全国の同窓生の更なる御活躍をお祈りいたします。

◆役員◆

※理事は省略させていただきました。

- 支 部 長 平野見一
副支部長 柿沼裕子 磯 佳子
監 事 菱沼 孝 齋藤初代
事務局 長 赤羽喜代美

※栃木県支部に新たに加入したい方、興味・関心がある方は、平野まで御連絡ください。

平野見一
【携帯】090-4662-1944
【メール】hira3ken3@hb.tp1.jp

※写真は令和5年6月の第1回役員会と支部だより「つる」とちLINE」第1号です。



支部活動の再始動に向けて

群馬県支部長 齋木 雄造

令和5年5月13日(土)、同窓会理事会・在校生との懇話会に出席するため、都留市へ行ってまいりました。当日は、雨で少し肌寒さを感じる天候でしたが、富士急行線の都留文



科大学前駅に降り立ち、大学の本部棟が目に見え、思わず胸の中が熱くなりました。前回の出席は、平成31年4月20日

(土)ですので、実に4年ぶりの理事会となります。コロナ禍の影響は、実に大きかったと言えます。

在校生との懇話会では、教養学部学校教育学科3年生、4年生の学生さんと「令和6年度採用群馬県公立学校教員募集

要項」をもとに話を交わしました。4年生は、進路を決める上で悩みの尽きない学年ですが、群馬県の教員採用試験を受ける場合には、同窓会群馬県支部として模擬面接学習会を開催するなど、全面的に応援する旨を伝えました。令和4年3月現在、80人の群馬県内の出身者が都留文科大学で学んでいるとのこと。今回の懇話会では、2名の学生さんと接点をもつことができましたが、このような機会を大切につつ、一人でも多くの人たちを確実に応援できるよう同窓会支部の取り組みを充実させていきたいと考えています。

ところで、令和5年6月24日(土)、高崎市総合福祉センターで群馬県支部役員会を開催しました。役員が実際に集まって会議を行うのは本当に久しぶりで、何事もなく顔を合わせることができたことに改めて感謝したい気持ちになりました。この役員会で、同窓会支部活動の中核とも言える「支部総会・懇親会」の開催が検討され、次のとおり決めましたので、お知らせいたします。

*日時 令和6年8月24日(土) 17:00~

*会場 高崎ワシントンホテルプラザ

詳しくは、改めてご案内いたしますが、皆様、ぜひ、ご予定いただきますようお願いいたします。

新たな都留文科大学を目指す方向性

千葉県支部長 川名 和則

令和5年5月13日、コロナ禍で開催できなかった同窓会理事会・在学生との懇話会が四年ぶりで併せて開かれた。理事会では、加藤敦子学長が紹介され、『新たな都留文科大学の方向性』が示された。内容は、令和6年4月から学部が改編され、次世代を見据えた人材育成を目指す。「学校教育学科」と「地域社会学科」はそのままで、「国際教育学科」と「比較文化学科」を『教養学部』へ、『文学部』は「国文学科」と「英文学科」の2学科体制へと移行する。両学部で国際性を取り入れつつ、幅広い教養、物事を深く考える能力を地域で実践し、コミュニケーション能力を身に付け、更に、世界から情報収集し、世界に発信していくその先を見通すことのできる人材を育成するための。学生にとっては、主専攻となる専門分野を超えて、副専攻として自分の興味・関心に沿って学びを選択することが可能となる。また、都留大の特徴である地域連携やフィールドワークをはじめ、語学教育・国際交流、ものづくり等の取組を発展させるため、ICT技術を活用するランドマークとなる新棟を中心に展開していくなど、創立70周年を目指した教育内容を充実させた多くのメリットが考えられている。

個人的な提案としては、素晴らしい学部改編方針であるので、それらのメリット内容を、全国の高校の受験生は勿論、各高校の教員に是非とも周知させてほしい。

8月5日には、同窓会総会が開かれ、河端雄一会長からは、全国41支部の発展と共に、人口減少の中での受験生をどう集めるか。公立大学100校中7番目で3500名の在校生数を数える中で、都

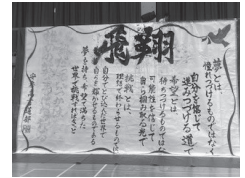
留大の評価をどう高めていくか。その問題解決のために、各支部の知恵を拝借したい旨の要請もあった。

講演会では、都留大同窓生でもあり元参議員副議長であられた興石東先生から『どうする、どうなる日本の政治教育』という演題で「世界の中の今後の日本のあり方」などの課題点の指摘もあった。特に、『明日の天気は変えられないが、明日の政治は変えられる!』という言葉と熱意溢れる講演には感動させられ、身の引き締まる思いであった。

さて、千葉県支部の『教員対策研修会』は、昨年同様、リモートによる個人指導と自宅から通える受講生を受け入れての三日間の実施となった。セクションごとの少人数参加であったが、有益な研修会ができたと考えている。会場提供していただいた三校の学校とボランティア講師の先生方にご尽力いただき、深く感謝申し上げます。

コロナ禍で支部総会を延期しておりましたが、今年度末か次年度には開催する方向で考えておりますので、本部からのご出席も宜しくお願い致します。

写真：加藤学長・興石東先生・四年ぶりに開催された文化祭(高校生)



来年度は何としても総会を

神奈川県支部長 山田 節朗

神奈川県支部では新型コロナの感染拡大により、2019年の総会以降4年間理事会・地区活動・総会など見合わせてきました。本年、新型コロナ5類移行後半年が経過したのを受け、感染に留意して理事会を12月3日に開催しました。21名の理事が参加し、会議では理事の自己紹介・総会後の経過報告・規約並びに理事の確認・総会に向けて・各地区での活動・次回の理事会などについて話し合いを行いました。そして、来年度は総会を実施するという確認もされ、準備を進めて行くこととなりました。

また、地区活動として相模原地区では幹事さんのご努力により、11月25日に『飛翔の会』が開催されました。ご多忙の中、同窓会会長の笹本忠彦様と学長の加藤敦子様にもご臨席を賜り、和やかにそして盛り上がった懇親会となりました。心より御礼申し上げます。出席された退職者や現役の皆さんも和やかに笑顔が溢れた懇親の様子から、改めて同窓会の意義を感じることができました。

今回の幹事も決まり、最後に記念撮影をして閉会となりました。

神奈川県支部における各地区での活動に期待。



若手教員を励ます会

富山県支部長 杉高 浩

富山県支部では、平成19年度より、ご退職された先輩校長先生方が中心となって、本県の採用検査を受検する学生に対して受験対策学習会を開催してきました。学習会では、願書の書き方に始まり、本県の教育方針に関わること、そして2次検査の面接・模擬授業(令和5年度の検査より模擬授業は廃止)対策・練習を行い、多くの学生を合格へ導いてきました。

さる12月23日(土)に、パレブラン高志会館において、受験対策学習会に関わり現在教員として教壇に立っている若手教員とその指導に関わってこられた本支部の顧問等が集まり、「若手教員を励ます会」を5年ぶりに開催いたしました。

この「若手教員を励ます会」は受験対策学習会が始まった頃から一部の顧問によって開催されていましたが、十数年前から本支部をあげて大々的にこの2学期末の時期に実施してきました。

今年は、5年ぶりの開催でしたが、以前同様、支部長の挨拶で始まり、今年度より教壇に立つておられる若手教員の紹介、さらにこの1年の間に結婚された若手教員へ記念品の贈呈を行ったり、一人一人の近況報告を行ったりしました。

しばらくの歓談を楽しんだ後、顧問の石黒先生から学校現

場や日々の生活に役立つワンポイントアドバイスをいたしました。喪中はがきの対応から英単語における「ン」と発音するnとmの違いに至るまで、楽しい話題盛りだくさんのワンポイントアドバイスの時間でした。

最後に、昨年度まで支部長を務められた顧問の城岸先生の閉会の挨拶で「若手教員を励ます会」の幕を閉じました。

これからも本支部の全ての会員がそれぞれの立場で孤独感を感じることなく、より一層活躍されることを願い、さらなる情報交換や交流の機会を計画していきたいと思ひます。



この1年を振り返って

石川県支部長 谷内 誠一

長い間、石川県支部の事務局長をされていた徳野正一氏が急逝されました。長年にわたり石川県支部の活動を支えていただいたご労苦に感謝し、心よりご冥福をお祈りいたします。新しい事務局長には、徳野氏とともに、支部同窓会の活動の中心的な役割を果たされていた光岡和道氏(1970年度卒業)が選任されました。新たな役員と会員が力を合わせ、今後とも石川県支部同窓会の活動に尽力していきたいと思ひます。

今年度は4年ぶりに、本県の教職志望の学生対象に模擬授業や面接練習の支援活動を再開しました。実施日の設定が思うように進まず、7月下旬に行われる教採試験のすぐ後に実施することになりました。大学のほうからいただいた本県の教授受験希望者の学生に連絡を取り、2名の学生の参加となりました。模擬授業の指導は、いしかわ師範塾のベテラン講師である会員にお願いし、面接練習は事務局役員が中心となって実施しました。参加した学生も大変意欲的で、きっと未来の石川の教育を担う教師に成長していこうという思ひを強くしました。

近年、本県においても教員志望者の減少が激しく、地域によっては教員の定数を満たすことができない状況も出てきていると聞きます。ささやかな支援活動ですが、今後とも可能な限り継続していきたいと考えています。

石川県支部の今後の大きな課題は、同窓会組織の拡大と活動の充実です。年々会員の高齢化が進み、次世代へのバトンタッチがうまくできていない状況もあります。昨年の20周年記念総会でも、「今後の組織拡大や活動の充実のために、会員一人一人が若い人たちへ地道な声掛けを続けていこう」ということが確認されました。そうした中で、他県で生活している若い同窓生から、「同窓会誌読みました。がんばってください」という声や、「支部同窓会に入ります。」という声も聞かれます。一気に成果を上げることは難しいですが、会員の皆さんとともに新年度も地道な努力を積み重ねていきたいと思ひます。

世代を超えたつながり

福井県支部長 佐藤 康裕

令和6年3月には北陸新幹線が敦賀まで開業するため、何かと話題になることが多い福井県。その盛り上がりの中、都留文科大学同窓会福井県支部「城山会」の総会と懇親会を数年ぶりに開催しました。残念ながら私用のため参加できない方が多かったのですが、当日15名の方々が集まり、昔話や近況に花を咲かせ楽しい時間を過ごすことができました。

私自身7月に、大学時のゼミの同窓会で、38年ぶりに都留でゼミ仲間と再会し、「変わってないなあ、当時と」「あのときは若かったなあ」など、懐かしい思い出の場所を訪ねながら、思い出に浸ることができました。都留での4年間は、思い出がたくさんありすぎて、語るには時間が足りませんでした。

そのゼミ仲間と当日ドライブしながら撮った写真(都留文科大学やその周辺の)を、「城山会」の懇親会で流しました。それを見ながら盛り上がるができるのは、やはりこのメンバーだからこそ。世代は違っても、共通する思い出はいっぱい。このかえがえのない仲間をつなぐ「城山会」。大切に受け継がれてほしいと改めて思う瞬間でした。久しぶりの懇親会ということもあり、会の発展や存続を願った様々

な意見や思ひも共有でき、来年度が新たなスタートとなる予感がします。「ちょうどよい距離間」、これからもそんな雰囲気のある会であることを願っております。よろしくお願ひいたします。



久しぶりに大学へ

山梨県支部長 輿石 務

「平賀あー、朝練いくぞー」(サッカー)
「おうー」

毎週日曜日(試合があるときは、土曜日)の早朝、1年生の私と平賀は、下宿を出て、富士急の線路を歩き、新津商店のところの踏切へ。そこから、音楽棟の脇の道路を通り、グラウンドへと歩いた。(寒い朝は、線路の枕木が霜ですべったものだ)

早朝のグラウンドには、誰もいない。二人で楽山を少し上ったところの部室へ行き、ライン引きと一袋の石灰、巻き尺を持ち、グラウンドへ。その頃には、他の部員もやってくる。朝練は、通常練習試合で、1年生は、コートづくりをする。まず、3.4.5の割合でコーナーの直角をとる。後は、それを延長し、コートを作っていく。巻き尺を使うのは、長さをきちんと取りたいときだけで、そのほかは、見当で直線を引いたり、歩測で描いたりした。そのため、1年生のはじめはコートづくりも時間が

かかったが、慣れたら、大分早くコートづくりができるようになった。(この経験は、教職について大いに役立った。)

コートが出来上がるころには、ほとんどの部員が集まり、そこへ引退した4年生がぼつぼつと登場し、レギュラーと4年生・1年生での試合の開始。そんなことから、4年生にはとてもやさしくしていただいたり、いろいろな話をしていただいたりしたなあ……………。

令和5年8月5日 山梨県同窓会総会、都留文科大学同窓会出席のため、久しぶりに同大学を訪れた。同窓会の活動は、コロナ禍のためここ3年間ぐらいは自粛が続いたようだ。自分の4年間(サッカー部員)を懐かしむと共に、少しでも後輩の役に立てる2年間にしたい。

再会を期す ～この一年の報告を兼ねて～

長野県支部長 市場 香代子

今年度は大学同窓会のご協力をいただき、コロナ禍でできていなかった支部名簿の整理を行いました。令和2年以降の卒業生の皆さんを含め、今まで事務局へご連絡いただいていた皆様との連絡に使わせていただきます。

さて、今年度は支部長として大学を訪れることができました。5月13日同窓会理事会、8月5日同窓会総会が対面で開催されました。学長先生、同窓会長様方から大学の現状、学部の変更のお話等を伺いました。また南都留合同庁舎のあった場所に完成した新棟にも入れていただきました。

理事会の際には在学生との懇話会も開催され長野県出身の学生さんと直接お話をしました。学年も学部も様々でしたが、若者が真摯に自分の将来について考えている姿にとても感動しました。卒業生として、「選ばれる大学・魅力ある大学」への期待、そして後輩への応援の気持ちが膨らみました。

また6月には教職にある若手同窓生と学生とのオンライン懇話会も実施され採用後2校目の勤務をしている先生に出いただきました。その様子については名簿確認時に送付させ

ていただいた支部便りをご覧ください。支部としては教職を目指す学生さんへの支援が主になると思いますが、今後でもできることを継続していきたいと考えています。

今年こそ支部総会開催を願っていましたが、5類になった新型コロナとはいえ、感染状況を考慮しているうちに開催を決めきれず、支部総会開催は来年度にさせていただきます。北信地区での開催を予定しております。ご了解いただくとともに多くの皆様との再会を願っております。

終わりにになりましたが、来年度は支部長が市村一彦さんに代わります。同窓生が増えていく中、事務局の負担等を考え、同窓会員との連絡は、はがきでの方法も残しながら原則Eメールに変えていきます。今までご連絡のあった方には既に通知してありますが、何かご不明のことがあれば、事務局岩崎さん(090-1816-9413)までお願いします。

支部会員同士の再開

岐阜県支部長 清水 久司



令和5年8月27日、久しく行われていなかった支部総会を開催しました。

懐かしい顔ぶれに思わず表情が緩むひと時でした。

写真はその時のものです。

この年の5月に行われた同窓会本部理事会の折に撮った写真を参加者に見てもらいましたが、都留の町並みの変わり様や大学施設の充実ぶりには驚きの声が上がりました。集まった会員の年代の違いから話題にズレを感じましたが、都留文科大学という共通項が我々を繋いでくれました。

同窓会は横のつながり、縦のつながりを感じさせてくれる場だということを改めて思いました。

下世話な例ですが、縦と横の糸を織り込んで同窓会の歴史

や伝統を紡いでいくとするならば、同窓生が顔を合わせて語り合うことは、大変意味のあることだと思いました。

若い年代の役員もメンバーに加わりました。支部同窓会に歴史や伝統が積み上げられていくことを願いつつ、再開を約束して会を閉じました。

令和5年度岐阜県支部役員

顧問	山本 吉朗(1965)
会長	清水 久司(1978)
副会長	藤井 幸子(1969)
"	香田 静夫(1985)
監事	河合 均(1984)
"	山口 敏則(1985)
庶務(事務局長)	村井 一雄(1978)
"	佐藤 眞治(1972)
"	古川 一男(1981)
"	河合のぞみ(2005)
	* ()は卒業年度

平和を願って (その2)

静岡県支部長 白井 泰

今年は久しぶりに同窓会理事会、総会が開かれました。小生はどちらにも出席し、お陰様で有意義な時間を過ごしました。特に、総会(8/5)で元参議院議員・興石東先輩の貴重なお話を伺えたことは何より良かったと思っております。

さて、静岡県支部は支部総会は今年も実施いたしませんでしたが、理事会を6月8日に開催しました。8名の出席で今後の計画などを話し合いました。今後の同窓会のあり方を考えるに、改めて卒業生の就職状況を見てみました。令和4年度の就職者689名の内、教員194名、公務員124名、企業353名とのことで、教育関係・公務員関係の年度の就職者数はほぼ変わらず、教育関係以外に広がっているのかなと感じます。本県での割合も変わらないと思います。そこで同窓会支部の持ち方も含め、組織作りを教育関係者だけに限ってはいけないなと思いました。是非会員の皆様のご意見をお聞かせください。来年は多くの会員に呼び掛けて総会を盛大に開催したいと思えます。会報誌もまた作成したいと思えますので、原稿をお寄せください。

ところで、ロシアのウクライナ侵攻、いつ終息するのでしょうか？さらに今年に入り、イスラエルのハマス攻撃、2ヶ月以上が瞬く間に過ぎました。世界中にいろいろな面で影響を与

えています。毎日悲惨なニュースが飛び込んでくるのが、やり切れません。原稿を書いている今日は、日米開戦の日です。どうして戦争を起したか、どういう戦争だったか、などを含め平和についてしっかり考えたいと思っています。

また、現在地球上でSDGsの実現が求められています。皆さんはどんな実践・取り組みをしていますか？日本だけでなく地球全体、環境の問題もエネルギーの問題も全て生命につながっています。生命の大切さをどう伝えていくかを、そしてこれからの令和時代をどのように生きていくかをしっかり考えていきたいと思えます。国と国の争いなどしている場合でなく、我々人類や生物全体の前途を真剣に考えなければならぬ状況に陥っているのです。

最後に、本学の現役の学生の皆さんのご活躍を見たり聞いたりするのがとてもうれしいものです。今年も都留文科大学合唱団の全国大会での金賞・日本放送協会賞の受賞を知りました。おめでとうございます。現役の学生さんが、これからもコロナに負けずに勉学にいそしみ、卒業してからも全国各地のご活躍をされんことを心より祈念申し上げます。そして、本学同窓会各支部の益々のご発展をお祈りいたします。

〈連絡先〉 西部・大場孝純 053-835-4779
中部・江川初枝 054-292-2231
東部・星屋 康 090-1289-0902
白井 泰 090-2185-8147

愛知県支部(県富岳会)この一年

愛知県支部長 寺尾 奨宏

愛知県支部は、様々な活動を、少しずつコロナ禍以前に戻つつあります。

12月には、令和元年以来の地域交流会を豊橋市で行いました。県下7地域、OB8名を含めた20名の同窓生が、4年ぶりの再開(再会?)を喜び、旧交を温めたり、新たな出会いがあったりと大いに盛り上がり、最後は「花のかげ」を熱唱しました。

また、本会は5年に一度、愛知県支部(県富岳会)総会を実施しています。平成12年以来、これまでに4回実施しています。令和2年に予定していた第5回はコロナで延期となり、令和7年に10年ぶりの実施を予定しています。久しぶりの開催なので、盛大な会になるように準備を進めています。

教員採用選考試験に関しては、愛知県・名古屋市の受験希望者を対象に学習会を予定していましたが、残念ながら今年度は「希望者なし」という結果になりました。次年度以降、受験希望者が増えていくことを期待します。

【令和5年度支部役員】

支部長 寺尾 奨宏(名古屋 S61初教)
事務局 加藤 由恵(名古屋 H3初教)

三重県支部の近況

三重県支部長 田畑 繁行

「お久しぶり。」「元気やった?」そんな挨拶がこちらから聞こえる中、8月26日、津市の教育文化会館において、4年ぶりに第18回三重県支部総会を開催することができました。今年度の参加者は21人で、来賓として大学から加藤学長をお招きしました。

5月の理事会報告の後、事業報告・会計報告・役員紹介が行われ、令和5年度の事業計画・予算案が承認され、総会は終了しました。

総会後の記念講演は、加藤学長に「都留文科大学の現在と展望」と題してお話していただきました。学長の自己紹介の後、コロナ禍での授業や行事、また、学部改編や大学と地域をつなぐTHMCを設置したこと、そして志願者数の減少傾向にある中、教員養成と並ぶもう一つの都留大ブランドを模索していることなどを統計や写真を使いながらわかりやすくお話していただきました。

総会の後、会場を移動し、懇親会を行いました。加藤学長にも参加していただき、総会とは違った雰囲気の中で、いろいろなお話をお聞きすることができました。短い時間ではありましたが、参加者はみんな学生時代にもどり、当時の都留の町を懐かしみながら終始和やかに、また、賑やかに会話を

地域幹事 名古屋 美頭 伸洋 (H10初教)
尾 張 土屋ゆり子 (H4初教)
知多・海部 富田 崇 (H3初教)
西三河 金丸 和章 (H15初教)
豊田・みよし 溝口千恵美 (S63初教)
新城・設楽 石田 浩三 (H10初教)
東三河 田村 圭司 (S63初教)

【12月2日 地域交流会にて】



弾ませました。そして、来年度も元気に再会することを約束しました。

支部では、今年度も会員相互の親睦と交流・支部組織の充実を目指します。会員の皆さんのより一層のご協力をお願いします。

令和4・5年度 三重県支部役員(卒年)

会 長 田畑 繁行(S54初)
副 会 長 田中 幹也(S52初) 八重篤敏一(S55初)
監 事 篠原 政也(S57初) 宮崎 弘子(S56初)
事務局 六田 嘉郎(S57初)
会 計 松岡みつ子(S56初)
庶 務 一木 尚子(S52初) 南 勝雄(S54初)
顧 問 福田 和幸(S46国)



滋賀県支部 結成11年目 第8回支部総会と懇親会を実施(コロナ禍で3回中止)

滋賀県支部長 松嶋 孝雄

滋賀支部が結成され11年間が、経過しました。年1回の総会・懇親会も、コロナ禍で中止もありましたが、今年開催することが出来ました。

令和5年8月27日に、私の住まう長浜市にある滨湖月ホテル(レジャーリゾートびわ湖長浜)において、事務局長様のご尽力により、「令和5年度滋賀支部同窓会の総会と懇親会」を開催することができました。我が支部事務局には大変な努力をして頂いています。開催回数は8回になりました。参加者数は、コロナが、「新型インフルエンザ等感染症」から「第5類感染症」への変更もあり、過去の参加者数より多人数となる予定でした。けれども、突発的な事情で、ほぼ例年と変わらない人数で開催されました。新しい先生方にも、参加頂きました。そうした経過の中で、コロナ禍の3年間の社会の変わり様の一端を垣間見たようにも思いました。私は、公的立場を退いてほぼ数年、退職後の教師との接点が多く現職の先生方と親しく話すことは無く、学校現場の現況に驚きました。「20代後半の研究主任」「中高年の教師が激減」等。私も14年前の退職時にも、多少は現在の状況を予想してはいました。しかし、これほどとは、想像だにできなかったことでした。

滋賀県でも教員志望者が減り、採用試験のあり方が、大きく変化しているようです。今後は気になる滋賀の教育界です。



滋賀県支部役員

- 支部長 松嶋 孝雄 (昭和46年度教卒業)
- 副支部長 大澤 裕 (昭和56年度国卒業)
- 会計監査 塩屋 勝志 (昭和57年度教卒業)
- 鳥飼 雅一 (昭和63年度教卒業)
- 事務局長 勝美 (昭和59年度教卒業)
- 事務局 大橋 雅子 (昭和57年度教卒業)
- 中村 雅昭 (昭和58年度教卒業)
- 村田 良文 (昭和58年度教卒業)

やっとできた総会・懇親会

京都府支部長 栢谷 雄三

3年間コロナ禍のため総会・懇親会ができませんでした。今年は、やっと開催にこぎつけました。

今回は、北部の順番でしたので、綾部市で行いました。現地役員の方に場所を探していただき、11月には現地役員・事務局長と私の3人で下見に行きました。江戸時代から続く料理旅館で、総会後の会員の評判も良かったです。

総会は、事前に事務局長が用意してくれて16ページの議案書に基づいて進められました。また、事務局長が大学から『都留文科大学大学案内』『都留文科大学地域交流センター機関誌』『都留文科大学報』『フィールド・ノート』(地域交流研究センター機関誌)などを取り寄せて、参加者に配布。都留大を身近に感じてもらうことができました。

私も都留大本部棟で5月に行われた同窓会理事会の報告を行い、「都留文科大学前駅」の写真もお見せし、都留の変わり様をお話しました。

懇親会は、19人の参加で(総会案内のハガキに不参加の方を含め73名の方がお返事の文を書きました。)それぞれのテーブルで盛り上がった後、全体での話に移り、ますます都留大の絆が深まりました。

また、夏にはバスをチャーターして都留大を尋ねることも

確認しました。これからも役員会、京都府支部広報の発行・発送、24年の総会とさまざまな活動があります。

【京都府支部役員】

- 相談役 酒井 好治 (S44年度卒)
- 支部長 栢谷 雄三 (S44年度卒)
- 副支部長 北村 友子 (S48年度卒)
- 事務局長 草野 真 (S49年度卒)
- 庶務その他



ひさしぶりやねえ ～大阪府支部同窓会～

大阪府支部 小林 治

「ひさしぶりやねえ。元気やった?しばらく会わなかったら、顔忘れてしまうわ。」と大阪らしい挨拶が交わされ、12月2日(土)大阪府支部同窓会並び懇親会を行うことができました。4年ぶりです。お店の方からも「お久しぶりですねえ。お元気でしたか。」とご挨拶をいただきました。場所はいつもと同じです。

ここ最近の近況報告からはじまりはしましたが、今回も学生の頃の都留での話に盛り上がり、昨年の同窓会役員会で同じ下宿の後輩から声をかけていただいた感動の再会や、都留の高校生の皆さんが雨の中演奏をがんばっておられて「生の大阪弁初めて聞きました。」と言われた話も含めてお知らせし、都留の写真や今の様子を紹介しました。あっという間に時間が過ぎ、最後は4年前と同じく懐かしい「花のかげ」の合唱で会をお開きとしました。懇親会会場にはお知らせしたとおり支部の旗を飾らせていただきお披露目することができました。新しく参加していただけた方もいらっしゃいました。ありがとうございました。今後も総会懇親会の開催を続けてまいりたいと思っております。ふるって皆様ご参加いただけましたら幸いです。大阪事務局までお気軽に問い合わせください。よろしく願いいたします。



兵庫県支部活動報告

兵庫県支部長 高谷 和久

全国都道府県の同窓生の皆様、コロナ禍も何とか収束が見えはじめ、息苦しいマスクの生活とも別れられるこの頃となりました。

兵庫県支部におきましては、コロナ禍で3年半の間に、役員会、総会を実施することができずに苦慮しております。更に、兵庫県における都留文科大学の卒業生は年々減少しており、同窓会の集まりも少なくなってきました。

また、兵庫県におきましては、兵庫教育大学に進学する学生がふえてきており、都留文科大学まで行かなくてもという学生が多くなるように思います。

今、全国の大学が生き残りをかけて、様々な特色を打ち出してきている中であって、都留文科大学も、全国の学生が受験してくれる特色ある教育活動を打ち出してほしいものと願っております。

その様な中であって、教員採用試験にかかる模擬授業と面接指導については、何とか実施することができております。

私が支部長になってから、コロナの発生で、兵庫県支部としての活動ができず、名ばかりの支部長になっており、心苦

しい毎日をごしております。

一日も早く、支部総会ができるよう、役員と協力していきたいと思っていますところです。

令和4・5年度 兵庫県支部役員（卒年度）

- 支部長 高谷 和久 (S43年度 初等)
- 副支部長 小林 伶子 (S40年度 初等)
- 副支部長 後藤 純二 (S47年度 英文)
- 副支部長 中山 貞二 (S54年度 初等)
- 事務局長 庄田 康夫 (S48年度 国文)
- 事務局次長 松尾 弘子 (S60年度 初等)
- 会計 小西 勝 (S45年度 国文)
- 会計監査 牛尾 英俊 (S46年度 初等)
- 各理事 7名
- 副理事 7名

尚 教員採用試験の勉強会の問い合わせは

支部事務局長 庄田 康夫
 TEL 0799-28-1197
 携帯 090-2045-6475

やっと開催できた総会

奈良県支部長 岡田 善英

8月27日、4年ぶりに学園前「百楽」にて支部総会・懇親会が開催されました。新型コロナウイルスの影響はまだまだ続いているが、国の感染症5類の移行に伴い、世の中の動きも徐々に以前の活動に戻りつつあることから、副会長とも相談して今年度の開催を決定しました。

会員の皆様に総会開催の案内を送りましたが、果たして参加いただけるか心配でもありましたが、当日7名の参加をいただきました。欠席の連絡をいただいた方には、4年間のブランクの間に体調を崩されたり、家庭や地域の行事に参加されたり、高齢のためだったり種々の理由が記入されていました。会員の高齢化はこれまで以上に進んできています。それでも久しぶりに参集いただいた皆さんと共に、再会できた喜びと4年間の生活ぶりや 当時の大学生活の様子などを楽しく語り合うことができました。そして、次回の総会が第10回目の開催になることから、これまでの8月開催で家庭や地域の行事に支障のある方のためにも、会場も変えて気候の良い時期に開催する予定です。来年度の総会の案内を楽しみにしていただきます。

全国の同窓会支部の中では少数の会員数ですが、大学への熱い思いは変わりません。この灯をいつまでも輝かせるため

思うようには…

和歌山県支部長 谷口 博保

令和5年を振り返ってみますと、「できることをする」つもりでしたがなかなか思うようにはいかないものだというのを痛切に感じています。

私事になりますが、令和5年の年明けに前立腺がん摘出手術（ロボット手術）をし、手術後の尿漏れに悩まされていた6月、私の地区が線状降水帯の被害に遭い、周辺の田畑が荒れ、我が家は軽度であったものの床下浸水の被害に遭いました。

後始末の苦勞と、さらに住んでいる地区は山間部にあるため、町の上水道ではなく自前の飲料水供給施設を利用していますが、その機器の水没や護岸損壊による川縁にある配管の流失損壊の被害を受けました。給水車の配備依頼など生活用水の補給手配、損壊箇所の応急処置対応等のしんどさがありました。（送水ポンプ等の復旧工事は9月に終わりました）

令和5年は特に6月から9月にかけて線状降水帯が多く発生し被害県が20を超えていました。

全国の会員には被害に遭った方もいらっしゃると思いますが、お見舞い申し上げます。

そんなこんなで、決して悲観しているわけではないのですが、本会の活動も含めてなかなか思うようにはいかないのだと実感しています。

にも多くの会員のご参加を期待しております。

令和5年度 奈良県支部役員

- 名誉会長 滝川 佳市
- 会長 岡田 善英
- 副会長 高橋 強 山本 泰彦
- 監事 石田 好庸
- 理事 西尾八千穂 辻 明彦 米田 悦子
- 清水 直樹 池田 祐之



しかし、本会の活動とは関係ないものの、10月には昭和51年度卒業の氷上部同窓会で旧交を温めることができたことはうれしかったですね。

▶ 5年度の活動 ◀

R5.3.30	役員総会(和歌山市)	R6.1月	事務局会(和歌山市)
R5.4.3	事務局会(岩出市)	2月	本部役員会(和歌山市)
R5.7.24	本部役員会(田辺市)	3月(4月)	総会(和歌山市)
R5.11.26	役員会(白浜町)		



役員会 R5 / 11 / 26 (白浜町)

第15回 鳥取県支部総会

鳥取県支部長 藤井 幹裕

令和5年11月23日(木)、倉吉市にて都留文科大学同窓会鳥取県支部総会ならびに懇親会を開催しました。

鳥取県支部は平成14年設立、平成19年からは毎年開催されてきましたが、令和元年を最後にしばらく中断していました。それでも今年は、ようやく、4年ぶりに同窓会を再開することができました。

鳥取県支部は、毎年11月23日を「都留文科大学同窓会の日」と決めて、同窓会が恒例行事となっていました。そのため、この3年間は年が暮れても「なんだかやり残したことがあったような…」という気持ちで過ごしてきました。今回、支部長の在任期間に同窓会を再開できてよかったと思いました。と同時に第15回という節目の会を開催できたことをうれしく思いました。

小さい鳥取県ではありますが、東中西と3つの地区に分かれていますので、普段は顔を合やす機会も少ないせいか4年ぶりの再会をみんなで喜びました。

同窓会での恒例の自己紹介で、それぞれの思い出を聞いたたびに、変わらない風景や年代とともに変わっていくスーパーマーケットなどのお店の変遷など時代の流れを感じました。何よりも語っている会員の皆さんが学生時代に返ったかのよ

うに見えてくるのです。

いつの日か鳥取県支部で「都留観光ツアー」を計画したいと思っています。いつか実現するといいなと思っています。

令和6・7年度 鳥取県支部役員

- 会長 西田 智貴
- 副会長 但住 文章 秋田 憲一
- 監事 名越 潤



久しぶりの島根県支部役員会

島根県支部 大島 英明

令和5年9月30日(土)に、都留文科大学同窓会島根県支部役員会を開催しました。数年間、コロナ禍で集まることができ

参加されたみなさんとは、久しぶりに楽しいひとときを過ごすことができました。会では、名簿の再編成を行い、できるだけ多くの方に総会に参加してもらえるようにしていこうという意見が出ました。

私事では、2年前に教頭職で退職し、現在は、再任用教諭として小規模校で子どもたちと楽しく過ごさせてもらっています。コロナ前には、毎年採用試験対策講座の講師として毎年都留に行かせていただいていたのですが、コロナ禍で中止となり、都留とのつながりが切れてしまって大変寂しく思っていました。

しかし、最近、山梨県甲州市に勤務校と全く同じ名前の「井尻小学校」があることが分かり、交流を始めることになりました。山梨の学校には、都留文科大学出身の先生がおられ、都留市に住んでいると言うことを聞き、新しいつながりができてうれしく思っているところです。

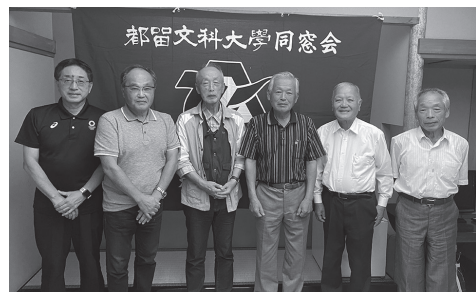
令和6年には、「総会」を開催する予定です。名簿を再編成し、イベント等を計画して活動を進めていく予定です。SNSによる

島根県会員の情報交流等も考えています。総会に向けて、しっかりと準備を進めていきます。よろしくお願いたします。

以下、現在の役員を紹介します。

◎島根県支部役員(卒業年度)

- 顧問 木村晴男(S44)
- 支部会長 小藤 貢(S45)
- 副会長 服部哲郎(S44) 榎野博巳(S45)
- 理事 飯島良子(S53)
- 理事 寿 慧信(S42) 伊藤 博(S44)
- 理事 大島英明(S59)
- 事務局長 大島英明(S59)



結び直しの年に

岡山県支部長 関野 茂夫

令和4年度も新型コロナウイルスの影響で総会及び懇親会を中止せざるを得ませんでした。令和5年の今年こそはと4年ぶりの対面開催に向けて準備をしています。3年の間に疎遠になった結びつきをもう一度結び直す年にしたいという思い

まず、大学とのつながりの結び直しとして30余年ぶりに都留文科大学を訪問しました。そして都留の街を歩き回りました。真新しい校舎や新しい駅に変わりゆく大学や街の現在進行形の姿に驚くばかりでした。大学周辺地図をつくってみんなに知らせました。

もう一つ、大学で「学生との懇話会」に出席し岡山で教授を受ける学生さんに心構えや岡山で話題になっていることなど岡山市や県の教育委員会にいただいた資料をもとに話しました。学生さんの一生懸命な姿をみて応援したい、結んでいきたいと思いました。これから何を結んでいくかは未知数ですが、少しずつ結び目の数を増やしたり結び直したりしながら岡山県のさまざまところで頑張っている卒業生と現役の岡山出身の学生さんにエールを送っていかれたらと思います。今後とも少しでも充実した活動ができるように頑張りたいと思います。

令和元年度に役員の改選が行われ、下記の役員が選出されました。

【新役員】

- 顧問 原田直樹 菱川 徹
- 支部長 関野茂夫
- 副支部長 中野元雄
- 理事 野崎博子 岩城孝志 金池兼広
- 監査 廣田巨史 竹内真二
- 事務局 野崎博子 竹内充子 金池兼広



(令和2年2月8日 ピュアリティまきび) 今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

4年ぶりに開催した広島県支部総会

広島県支部長 中西 正一

コロナ禍の影響で広島県支部の活動を一時休止にしています。今年に入り、小谷支部長がご逝去されました。長年にわたってのご功績に深く感謝し、心からご冥福をお祈り申し上げます。

こうした中、5月に役員会を開き、今後の運営や役員人事等について協議をし、総会開催の日程及び支部長・副支部長の新任の推薦をしました。

8月20日には、広島市内のホテルにおいて、久しぶりに通常総会が開催できたことを大変嬉しく思っています。主な協議内容は、新役員承認、決算・予算承認に続いて、今後の運営について意見交換をしました。広島県人会の同窓生は当初400名を超えていました。現在、支部会員は約100名と減少している状況ですが、今後も同窓会の活動は継続することを確認しました。参加者を増やすために「内容の充実」「同級生や周辺の卒業生へ働きかける」「比較的集まりやすい場所で開催する」等の活発な意見が出され、次回へ向けての明るい一歩となりました。

この会のために都留文科大学同窓会事務局担当者柴田様より大学報並びに大学案内の資料を提供していただきありがとうございました。

<令和5年度役員>

- 顧問 金久睦彦
- 支部長 中西正一
- 副支部長 田丸正実 吉貞至誠
- 事務局長 二宮 正
- 理事 山城義明 玉山 洋 猪原憲三 本宮達弘
- 土橋義信 池田桂子 島本智子 福岡武志
- 三京弘明
- 監査 白石 隆 五葉木輝正
- 幹事 山中 護 田辺恵子 安藤正弘 奥窪尚昭
- 末房朋子



「笑顔再び つながり広がる」高知県支部

高知県支部長 前田 志郎

平成15年6月に高知県支部が設立されて、今年で21年目を迎えました。同窓生の会員数は少ないものの、県内同窓生の集いは設立当初から脈々と続いています。しかし、令和2年度からは、新型コロナウイルス感染症の影響により総会・懇親会の中止を余儀なくされていました。

本同窓会は、会員相互の研修と親睦を目的に毎年8月第一土曜日に開催しております。参加者全員が卒業年度や学科に関係なく都留での生活を語り合い、親交を深めることでつながることの大切さ・すばらしさを共有しています。

やっと新型コロナウイルス感染症の位置づけが変更となり、8月5日、4年ぶりに高知市にて総会を開催することができました。

高知県支部総会では、参加者全員による「花のかげ」の合唱での開会が恒例となっています。今回も伴奏が流れ出すと、一気に大学生だった当時に戻ったように感じました。総会では、活動が中止となった期間の状況や会計報告を行いました。また、役員改選も滞っていたため、会則を確認するとともに役員改選を行いました。令和5年度から2年間、新たな役員体制で運営していきます。新旧交代を進め、同窓生相互の交流をできるだけ広く行っていきたいと考えています。これまで

では、支部総会への参加者が固定化されており、新しく参加する同窓生がなかなか増えない状況が続いていることが課題としてたびたび話題となっていました。今回、総会開催のご案内には、これまで以上に多くのメッセージや返信をいただきました。同窓生皆さまが大学のつながりを大切に思い、支え合っていることを改めて実感したところです。

次回の支部総会は、8月3日に開催の予定です。これまでどおり「つながろう・広がろう高知県支部」を合い言葉に、笑顔いっぱい同窓生の皆様とお会いできることを楽しみにしています。



【支部役員】(令和5年度改選)

- 顧問 清岡 典代 会長 前田 志郎
- 副会長 東 明夫 榎並谷典容
- 理事 楠瀬 弥生 今橋 英二 岸本 教恵
- 事務局 和田 恵 監査 和田 剛一

やっと開催できた支部同窓会総会

長崎県支部長 平山 繁壽

コロナ禍で、なかなか開催できなかった支部総会を4年ぶりに島原市の「ホテル南風楼」で開催しました。

今回は、女性の会員も出席しやすいように昼間に開催してみました。島原地区の女性3名の出席があり、長崎地区からの参加者も含め11名で実施しました。特に今回は、はるばる壱岐地区から1名出席してくださいました。若手の会員も出席予定だったのですが、前日から体調不良で出席できなかったのは残念なことでした。

初めての出席者も多かったので、自己紹介を含めた近況報告を行い、世代を超えた先輩方との交流も深まりました。

総会資料に都留文科大学の歴史を載せていたので、自分の在学中にはなかった校舎や本部棟・最も新しい6号館の完成・新たな学部編成等を話題に変革している大学の紹介もしました。

最後に、学生歌「花のかげ」をみんなで合唱して閉会しました。

次年度は、令和6年8月17日(土)に壱岐市で開催することになりました。初めて島で開催します。

会場・開催時刻等については、4月下旬頃までにはお知らせしたいと思っています。是非、多くの会員の皆様の参加を待っています。

また、今年度は都留市の「道の駅つる」から、都留文科大学との連携事業として九州物産展を開催したいと連絡がありました。

長崎県からは、南島原市の「そうめん」・島原市の「チェリー豆」・壱岐市の「麦焼酎壱岐ゴールド」を紹介しました。九州他県の物産を含めて、大盛況だったそうです。



<令和5年度の役員>

- 支部長 平山繁壽
- 副支部長 江口匡彰・明石 仁・太田尾透一郎
- 事務局 渡邊 林
- 幹事 尾崎威敏
- 理事 各地区代表・事務局等

5年ぶりに開催した支部総会

熊本県支部長 杉水 修

熊本県支部は2年に一度支部総会を開催していましたが、平成30年に開いた後は感染拡大防止のために開催を見合わせていました。今年度は新型コロナ感染症が5類に引き下げられたため、5年ぶりに開催することができました。

支部総会では主に新役員と会則改定について協議しました。永田好文氏には、平成23年から長きにわたり支部長を



務めていただきご苦勞をおかけしましたので、交代することとなりました。それに伴い他の役職も大きく変更となりましたので、総会で提案したのち承認を得て新しい体制がスタートしました。

久しぶりの懇親会では都留で過ごした学生時代を思い出していただくために、山梨産のワインや日本酒を取り寄せてみんなで味わいました。また、赤や青の巾着に入った山梨のお菓子を用意して、お土産として持ち帰っていただきました。いつものように最後は「武田節」をみんなで歌って、2年後の再会を約束して和やかなうちにお開きとなりました。

【新役員】

- 会 長 杉水 修
- 副 会 長 池田 由美 田山 智雄
- 事務局 長 田山 智雄(兼任)
- 会 計 梶原 圭一
- 監 査 西釜 裕子 深江 圭子
- 企画担当 池田 由美(兼任)
- 青年部 谷方 寛裕
- 地区委員 松村 誠一 山邊 健二 田山 智雄(兼任)
- 白木 憲昭 俵 尚貴 坂本 彰
- 高倉 利孝
- 顧 問 永田 好文

支部総会・懇親会開催

宮崎県支部長 取附 義弘

宮崎県支部は、活動の主眼を会員相互の親睦と福利厚生を図ることに置き、さらに母校の発展に寄与することを目的に平成9年10月25日に結成しております。

本年は、コロナ禍により令和元年以来久しぶりの開催となる支部総会及び懇親会を11月18日(土)宮崎ひまわり荘において開催しました。

総会では94歳の大先輩から、令和3年卒の方までご参加くださいました。議事も、皆様にご意見や知恵を戴き、スムーズに進行することが出来ました。

総会後の懇親会では、加藤学長からのメッセージや大学の近況に、リニアモーターカーの疾走する町並み、町中を駆け下る清流や楽山からの眺望を脳裏に浮かべ、時を忘れ大いに盛り上がりました。

また、記念講演では「九州の関ヶ原 耳川の戦い 島津×大友」を、本会会員の古川久師氏より行っていただきました。戦国時代をテーマとした新作の出版を心待ちにしております。

今回の総会にご都合が付かず、欠会を余儀なくされた方々に、来年(2025年)の次回総会でお会いできることを楽しみにしています。会員の皆様をはじめ、ご家族の皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げましてご報告に代えさせて戴きます。



支部の充実と拡充を目指して

鹿児島県支部長 本田 武久

鹿児島県桂川会は、6月24日(土)鹿児島市内のそば店で役員会を開催しました。本部理事会の状況報告とともに、令和5年度の活動計画を検討しました。これまで支部として独自に作成していた同窓会名簿と、今回新たに入手した名簿を元に、現況にもとづいた点検を実施して、より充実した名簿作成に一年間をあてることを申し合わせました。コロナが完全に終息していない現状を考えると、早急に多数での総会を開くより、支部の更なる拡充を今は図った方が急務ではないかとの結論に至りました。

教職員名簿と照合しながら、より現況に即した同窓会名簿の拡充を図ることを目指して、この一年間を過ごし、令和6年度により充実した総会開催を図ることとしました。令和6年2月の役員会までに名簿の作成を終えて、3月の通知文発送を目指すことを確認しました。来年度こそ、これまでに無い充実した総会が開催できることを確信しています。

これまで同窓会員間の情報交換で作成していた同窓会員名簿が、現状に即した名簿になることで、今後の活動も更に充実したものになることを願っています。



- 会 長 本田 武久 (昭和43年度卒)
- 副会長 大山 典男 (昭和45年度卒)
- 副会長 水流 広之 (昭和55年度卒)
- 事務局 橋野三智男 (昭和58年度卒)
- 事務局 中村 智子 (平成元年度卒)
- 監 事 室屋 綾 (平成2年度卒)
- 監 事 平澤 泰明 (昭和41年度卒)

令和5年度沖縄県支部総会報告

沖縄県支部長 比嘉 正夫

令和元年度以来4年ぶりに総会を持つことができ、役員一同はっとしています。今年は何はともあれ総会を持つことに意義を置こうと話合ってきた。今回から従来のハガキによる連絡と合わせて、支部ラインを作成しての連絡にも事務局が取り組んだ。今回は総会までに2度の役員会と、理事会と会計監査が行われた。

令和5年11月18日(土)17時~19時、那覇市内で行われた。今回光栄にも加藤敦子学長にご出席いただき、喜び大であった。

総会の事業報告の中で現役学生の県人会への補助金を贈呈していること、昨年度と本年度は学生と交流の場を持つことができたことや、今後県人会活動についても助言ができないか検討することになった。課題としては支部の活発な運営を図ること、支部同窓会周年記念事業が持てなかったことから今後本部からの情報収集も行い、還元できる事業が持てないか検討することとした。

総会終了後に学長の講演が行われた。令和7年には大学が70周年を迎える。コロナ禍での授業の持ち方の変遷の様子が聞けた。現在の学生の進路は教員が3割、公務員が1割、企業が6割になっているとのこと。また大学の2024年度か

らの学部学科の構成の変化についても説明があり、大学の変化、発展に驚きと喜びを感じた。

その後、懇親会を持った。参加者全員が「大学での思い出、エピソード」を話した。大学で新聞部を作り今は夫婦となった二人は、東京の某新聞社で勤めあげた後沖縄に15年程前にもどり、今回初めて同窓会に参加できた。また国文学科卒で高校教師の方は、都留で初めて四季を感じる事ができ、枕草子の春はあけぼのなどの表現が理解できた。沖縄本島以外の島からの参加者もいた。話を聞きながら、都留で様々な学生生活が送られていたこと、卒業後も様々な人生が展開されていることを思わされるととても良い懇親会になった。今後、支部同窓会の充実と大学への協力について取り組んでいきたい。



令和4年度 都留文科大学同窓会会計収支決算書

◆収入の部

(単位：円)

Table with 7 columns: 項目, 当初予算額, 補正予算額, 予算現額, 収入済額, 備考. Rows include 入会金, 終身会費, 繰越金, 雑入, and 収入合計.

◆支出の部

(単位：円)

Table with 7 columns: 項目, 当初予算額, 補正予算額, 予算現額, 収入済額, 備考. Rows include 事業費 (with sub-items like 会報発行費, 支部助成金), 会議費, 同窓会本部費, 積立金, 予備費, and 支出合計.

(収入済額) (支出額) (収入・支出差引残高額)
¥17,463,762 - 12,442,437 = 5,021,325

◎令和4年度 基金積立及び取崩状況

Table with 2 columns: 項目, 金額. Rows include 財政調整基金積立金額, 大学創立記念事業基金積立金額, 財政調整基金取崩金額, 大学創立記念事業基金取崩金額.

令和4年度末 基金の内訳

Table with 2 columns: 項目, 金額. Rows include 財政調整基金, 大学創立記念事業基金, 計.

体育会紹介

令和5年度 体育会会長 柴田 陸

さて、コロナ禍を経て、本年度の6月に伝統の「第47回鶴鷹祭」を開催することができました。しかし、開催にあたっては、先輩方の経験やノウハウなどが引き継いでいなかったことから、手探りで企画・運営を進めていくこととなりました。準備段階では、50年近くの歴史と伝統を誇る鶴鷹祭の“完全復活を！”というプレッシャーを感じながらも、開催にあたり地域の企業や飲食店の皆様の協賛をいただくことで、地域との繋がりや温かさを感じました。

当日は、同じ体育会に所属しながらも普段見ることができない他団体の競技を間近で観ることができ、スポーツの素晴らしさ・美しさ・力強さなどを感じることができました。

また、プレーだけではなく、両校の応援にも熱がこもり、コロナ禍前と変わらない盛り上がりとなったのではないかと思います。

なお、本年度は、8月に行われた関東甲信越大会にも多くの団体が参加し活躍するなど、年間を通して充実した活動を実施することができました。



令和5年度 陸上競技部主将 池端 晴子

私たち陸上競技部は、「部員全員が自己ベスト更新」「日々、全力疾走」「4年間完全燃焼」をモットーに、みんなが伸びるチームを目指して活動しています。今シーズンからは声出し応援が可能になり、本来あるべき競技会の姿がようやく取り戻されました。今年度の対校戦の結果を振り返ると、関東ICでは男子2部棒高跳で1年三浦が4位入賞しました。関甲信・27大学対校ではともに女子総合3位、男子も目標順位を達成することができました。PB更新回数は去年を上回る62回と、少しずつではありますがチームとして着実に前に進んでいることを実感しています。来シーズンはさらなる活躍を目標に、関東ICや全日本ICに一人でも多く出場・入賞できるよう、部員一同冬季練習に励んでまいります。また、2月には男女ともに久々となる27大学対校駅伝への出場を予定しています。自信を持って挑めるように準備していきます。同総会員の皆様には日頃よりご支援いただき、心より

感謝申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



令和5年度 ソフトボール部代表 中田 凌真

凜とした空気の中、暖かな陽の光に満ち足りた気持ちになる冬麗。都留文科大学の同窓会の皆様におかれましては、ますますのご健勝のこととお慶び申し上げます。

私たち男子ソフトボール部は、令和5年度の秋季関東リーグ戦で1部昇格を目指し、日々練習に励んでおりました。リーグ戦は、雨天の影響により約1ヶ月の長丁場ではありましたが、2部リーグ優勝、1部との入替戦でも勝利を重ね、念願の1部昇格を果たしました。学年関係なく部員全員で掴み取った1部昇格は、計り知れない喜びがありました。また、令和6年度にも開催される春季関東リーグ戦においても、1部残留を目指し、当部活の目標でもあるインカレ出場を果たせるように鍛錬を重ねていきたいと存じます。

私たちが活動や様々な大会に参加できているのは、体育会本部、後援会、並びに同窓会の皆様のご協力があったこそだと存じます。これからも、恩返しとして男子ソ

フトボール部の朗報をお届けできるように、部員一同精進して参りますので何卒ご声援をよろしくお願い致します。



文化会紹介

令和5年度 文化会会長 稲田 緑里

春情のみぎり、同窓会の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

今年度の文化会では新型コロナウイルス感染症対策の制限が緩和されたことにより、従来のような活動ができるようになってまいりました。また、所属団体でも活動の幅が広がり、桂川祭をはじめとして日ごろの成果を発揮できる場面が増え、活気溢れる一年となりました。制限が緩和され、以前よりも自由な活動ができるようになった今、文化会は所属団体が部活動・サークル活動をより安心して集中して取り組めるよう尽力しております。

昨年度よりもできることが増えた分、戸惑うこともあり不慣れな部分もありましたが文化会並びに所属団体が

今のように活動できていますのは、ひとえに大学の先輩方、職員の方、関係者の皆様のご支援・ご協力のおかげです。文化会の活動にご理解をいただきありがとうございます。今後ともよりよい活動ができるよう努めてまいりますので、文化会をよろしく願いいたします。



令和5年度 落語研究会会長 大竹 真央

都留文科大学落語研究会はメンバー各々の『やってみたい』を実現することを指針に活動を始め、来年で十周年を迎えます。毎週月曜日と木曜日に活動しており、現在は落語の他にもコントや漫才など様々なジャンルのお笑いに幅広く挑戦し、学内寄席や外部寄席で披露しています。

今年度は学外での寄席を開催する機会を多く設けさせていただき、コロナ以前のように地域の方にも楽しんでもらえるような企画をすることができました。また3年ぶりに落研としての寄席・劇場鑑賞会を行い、メンバー同士の交流を深めるとともに洗練されたお笑いの鑑賞を通して自分たちの芸を磨くことができました。

メンバーの「やってみたい」を実現しつつ、たくさんの方に笑顔になってもらえるようこれからも精進してまいります。今後とも都留文科大学落語研究会をよろしくお願い致します



令和5年度 書道部代表 田中 愛海

書道部は毎週火曜日と金曜日に活動しています。今年度は新入部員が沢山入ってくださり、例年より活動の幅を広げることができました。毎年恒例の、年2回の校内展覧会では、臨書作品だけでなく、書道パフォーマンスの作品や筆を使った絵などともユニークで楽しい展示ができました。桂川祭での展覧会では2日間にわたって書道展覧会を開催できました。学年ごとの合作や好きな歌詞というテーマに沿った作品、部員の主張やコレクションなど個性豊かな作品がある一方で、6種類の合同臨書作品や一部の部員による拓本など書道の勉強が中心の作品も展示しました。昨年度から始めた書道パフォーマンスでは、青空アピールと桂川祭の2回にわたって出

演しました。今年度の桂川祭は人数の関係上、初めてチームを2つに分けて挑戦しました。とても迫力のあるいいパフォーマンスができたと思っています。これからも書道の魅力を部員全員が学んでいき、より良い作品を生み出せるよう精進して参ります。今後とも書道部をよろしく願います。



令和5年度 路上ライ部会長 小野 叶絵

路上ライ部です。私たちは毎週火曜日と木曜日、18:10から21:00まで活動しています。大きな声と激しいギターで歌い放題です。部の雰囲気はゆるいですが、音楽への愛はみな人一倍強いです。もちろん弾き語りだけでなく、打ち込み、インストゥルメンタル、ラップ、朗読、漫談など形をこだわりません。演奏するのが好きな人も、聴くのが好きな人も、とにかく音楽が大好きなみなさんを路上ライ部は歓迎します。

そして、5月(春の陣)、7月(夏の陣)、11月(桂川の陣)、12月(聖夜の陣)、2月(冬の陣)にライブを開催しています。魂を削っている部員から穏やかな部員まで、とにかくみな全力でパフォーマンスしているの

ぜひ観に来てください。



令和6年能登半島地震による被害へのお見舞い

このたびの能登半島地震で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。
被害を受けられた皆様の安全と、一日でも早く平穏な生活に戻られますことを心よりお祈り申し上げます。

氏名・所等変更はホームページ・E-mail・郵便はがき・FAX でお願ひします

結婚・転居等により住所や氏名等を変更された方は、次の必須事項及び変更内容を、いずれかの方法によりお知らせください。郵便はがきでの氏名・住所等変更届の場合は、はがきは自己負担をお願いします。

1 ホームページ

- (1) ホームページより[卒業生の方へ]→[同窓会]→[同窓会氏名・住所等変更届]にて行ってください。なお、詳しい変更方法については、ホームページ上に掲載してありますので、ご参照ください。
都留文科大学ホームページ
URL : <https://www.tsuru.ac.jp>
- (2) ホームページ上にて氏名・住所等変更届けを行う際には、次のパスワードが必要となります。
パスワード : tbdh2206 (半角英数)
※同窓会会員以外による不正使用がないよう、パスワードの管理にはくれぐれもご注意ください。



2 E-mailにて送信

E-mail : dousokai@tsuru.ac.jp

3 FAX・郵送

〒402-8555 山梨県都留市田原3-8-1
都留文科大学同窓会 宛
TEL 0554-43-4341 内線206
FAX 0554-43-4347

◎必須項目	○変更内容
氏名(フリガナ)／旧姓	現住所／電話番号
卒業年・学科	勤務先名
生年月日	勤務先住所／電話番号
	勤務先の役職

※住所移転等で同窓会報がお手元に届かない場合があります。もししたらご連絡ください。

寄附金のお願い

都留文科大学は、現場が求める教師像を常に研究し、子ども達と共に輝ける教員を育成して、全国へと送り出してきました。このまちをフィールドに、地域の人々と連携しながら育成してきた実践力ある人材は、幅広い分野で活躍しています。地域と世界を自在に往来できるグローバル人材を育成し、世界に発信していきます。こうした取組をより推進するため、みなさまからの温かいご支援を賜り、事業の財源とさせていただきます。

ツルブツへの寄附の仕方は2パターンあります！

エフレジから

インターネットまたは銀行振込でお申込みいただけます！

1,000円から寄附できる！

詳細はこちら ▶



都留市のふるさと納税から

- ① 都留市のホームページからふるさと納税をチェック！
- ② 各種ふるさと納税ポータルサイトで必要事項を入力
- ③ 選べる使い道で大学のまち・学生のまちの推進(都留文科大学への支援)を選択

返礼品がある！

詳細はこちら ▶



創立記念寄附金のお願い

都留文科大学は2025年度で創立70周年を迎えます。今後も都留文科大学が選ばれ続け、さらなる飛躍を目指し発展し続けるため、70周年記念事業を開催する運びとなりました。これまでの記念事業と同様に、同窓会の皆様とともに70周年記念事業を進めていきたいと思っておりますので、ご協力をお願いいたします。

※今後、寄附金口座を開設する予定ですので、その際は改めてご案内します。



Tsuru Humanities Center



エントランス広場



2F

エントランスホール



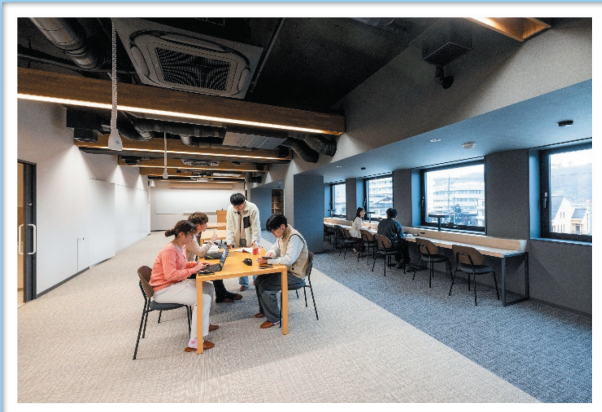
2F

カフェcommons



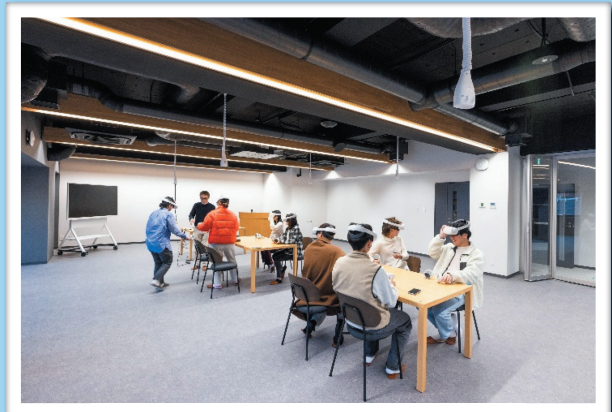
2F

演習室1



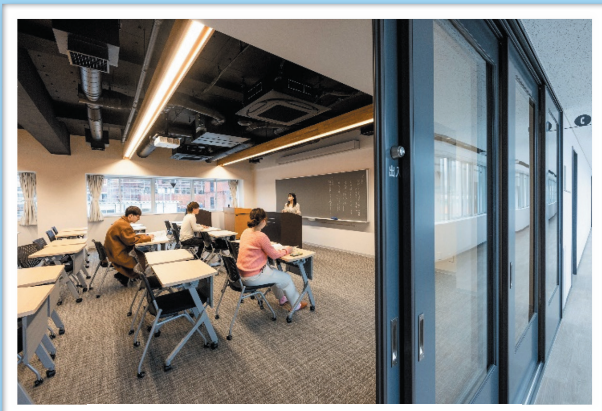
3F

ラーニングcommons1



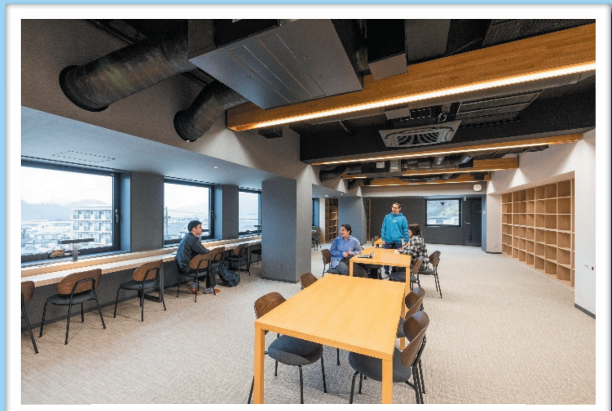
3F

デジタルcommons



4F

模擬教室



4F

ラーニングcommons2